

事例

01

その他事業



平塚市の Instagramを、 高校生が 乗っ取った!?



市公式Instagramのテイクオーバー

令和3年～

平塚学園高等学校写真部、東海大学観光学部 × 広報課

協力・連携
ポイント

県内初「Instagramテイクオーバー」でひらつかの魅力を発信

事業概要

市公式Instagram「hiratsukagood」では、平塚のGOODなシーンや思い出を収めた写真を「#hiratsukagood」のハッシュタグで募集しており、現在10万件を超える投稿が集まっています。

R3年度から同アカウントを公式に乗っ取ってもらうことで、新しい視点でコンテンツを投稿する手法「Instagramテイクオーバー」を平塚学園高等学校写真部と実施し、夏休みをテーマに若い世代の目線で市内各所の魅力を発信しました。

R4年度には同校写真部と湘南ベルマーレゆかりのスポットを紹介したほか、東海大学観光学部にも協力をいただき、若い世代がおすすめする市内飲食店などを紹介しま

した。

「Instagramテイクオーバー」の実施は、県内自治体では初の取り組みとなり、若い世代のフォロワーの増加や各メディアへの露出に繋がりました。R3年度「平塚市のInstagramを高校生が乗っ取った!？」は、R4年全国広報コンクールの広報企画部門で、本市で初めて入選しました。

協力・連携のきっかけ

同アカウントは若い世代が他市と比較して極めて少ないことが課題でした。従来から写真展の共同開催などの経緯があった平塚学園高等学校写真部の力を借りて、若い世代の目線で市の魅力を発信することで、市への関心を引くことができなかつたのかと考えたのがきっかけです。

R4年度には、商業観光課の平塚市民・大学交流事業とも関連して、東海大学観光学部にもご協力いただきました。

役割分担

【団体の役割】

- ① 企画：どのようなテーマで発信をするか考案
- ② 取材・撮影：取材先へのアポイントから、取材、撮影まで
- ③ 投稿文章の作成：Instagram投稿用の文章・ハッシュタグの作成

【行政の役割】

上記①～③までのサポートと実際に同アカウントでの投稿作業

事例

02

その他事業



ひらつな祭

平成23年～

ひらつな祭実行委員会 × 災害対策課

協力・連携 ポイント

市民活動団体による自助・共助の周知啓発

事業概要

～災害から命を守るスイッチ ON!～をテーマに掲げ、楽しい催しの中に防災のエッセンスをちりばめ、それに触れてもらう事で「被災地と防災」を身近に感じてもらいたいという想いで東日本大震災の翌年から毎年3月に開催している防災イベントです。

地元の子供たちによるダンスパフォーマンスや幼稚園・保育園児に描いてもらった600枚の「笑顔絵」青空展示のほか地元ミュージシャンによる音楽ステージなどの催しを企画しています。

また、日頃から被災地の支援や防災の活動に取り組んでいる団体にご協力いただき企画ブースも展開しています。

「被災地支援と地元の防災力の強化の為に、いろんな手と手をひらつなでつなげよう!」という思いから「ひらつな祭」と名付けました。

同じ地域に暮らす人と人とのつながりを広げていくことが、いざという時に助け合える大きな力になることを信じ、地元の有志が中心となりボランティアで企画運営しています。

協力・連携のきっかけ

FM湘南ナパサの周年事業で企画した防災イベントがきっかけとなり『ひらつな祭』は誕生しました。

以前は共同開催で実施していましたが、現在では平塚市が後援として起震車や、パネル展示などのブース出展を行っています。

役割分担

【団体の役割】

- ・実行委員会の運営
- ・会場の確保
- ・まつり当日の運営と受付
- ・資料の作成
- ・会場の準備と片づけ

【行政の役割】

- ・実行委員会への助言
- ・ブース出展



事例

03

その他事業



軽トラ・ファーマーズ

平成28年～

会員農家 × 農水産課

協力・連携 ポイント

農家と農水産課がタッグを組んで平塚農業をPR

事業概要

市内の各イベントに出張し、丹精を込めて作った農産物を農家本人が直接販売します。平塚産農産物のPRや地産地消の推進を目的に、公民館まつりや企業祭等の様々なイベントに出向いています。

農家が日頃から販売している市内直売所を紹介しながら販売することで、イベントが終わった後も、消費者に市内農家の農産物を選んでもらえるようPRしています。

農水産課はイベント主催者と農家の仲介役として、関係者との調整や参加農家の取りまとめを行います。

軽トラ・ファーマーズ会員の農家は少しずつ増加しており、現在は16人の農家に加入いただいています。

協力・連携のきっかけ

平塚の農業PRの1つとして、農水産課がH28年に企画しました。

企画当初から、事業目的に御理解いただける農家が多かったため、同年に第1回の開催が実現しました。

来場者と参加農家それぞれから好評を得て、現在まで事業が継続しています。



役割分担

【団体の役割】

- ・農産物の用意
- ・当日の販売対応

【行政の役割】

- ・イベント主催者との調整
- ・参加農家の取りまとめ
- ・会場の設営
- ・販売対応の補助



事例

04

その他事業



地域資源活用による交流型体験の里づくり事業

令和2年～

城島地区地域活動推進会議、NPO 法人湘南 NPO サポートセンター × 協働推進課

協力・連携
ポイント

地域住民・各種団体による地域資源を活かした事業

事業概要

地域活動団体、地元の大学・高校や民間企業が連携し、城島地区の資源を活用した交流・体験活動に高齢者がいきいき参画できる仕組みづくりを通し、地域運営の持続性が向上することを目的に、R2年度から行っている事業です。

城島地区地域活動推進会議、湘南NPOサポートセンター、平塚市の3者が協力・連携し合いながら、高齢者を中心とした地元スタッフが主体となって、城島地区の特色を活かした自然・歴史探索体験、休耕地を活用した農業体験など様々な事業を実施しています。

その中でも、れんげ田んぼで開催した「きじまるシエ」には、地域内外から多くの人が訪れ、城島地区

に賑わいをもたらすとともに、地元特産物の販売や花モニュメントの設置を通して、城島地区の魅力を広く知ってもらうことができました。

R4年度より、県立平塚農商高校との地域学校協働活動も始まるなど活動の幅も広がりつつあります。

協力・連携のきっかけ

城島地区地域活動推進会議の主要メンバーが城島地区の課題を解決することを目的に、「ひらつか地域づくり市民大学」に参加したことがきっかけとなり、城島地区地域活動推進会議、湘南 NPO サポートセンター、本市の3者で神奈川県「地域の支え合い仕組みづくり事業」という助成制度を活用して、城島地区の活性化に取り組むことになりました。

役割分担

【団体の役割】

- ・事業の運営協力
- ・支援者の募集
- ・関係組織・者との調整、事業の推進、コーディネート

【行政の役割】

- ・連携先との連絡調整
- ・広報
- ・運営協力



事例

05

その他事例



住民主体地域内移送

令和元年～

地域住民 × 福祉総務課

協力・連携
ポイント

全ての人が互いに支え合う地域共生社会の実現に向けた活動です

事業概要

少子高齢化により高齢者人口が増加することに伴い、要介護者や要支援者、また免許を自主返納される高齢者が増えつつあります。そうした状況の中、市内一部の公共交通機関が利用しにくい地域では高齢者等の身近な地域内での移動が課題となっています。

住み慣れた地域で心豊かに安心して暮らしていくためには、外出機会を確保し、社会とのつながりを維持していくことが不可欠であり、これは介護予防の観点からも重要なポイントとなります。そうした課題意識のもと、地域住民が主体となった地域福祉の取組として、一部地域において移動が困難な高齢者等を対象とした自家用車等による移送支援を行っています。

この移送支援は、運送の対価を徴収せず道路運送法での登録や許可を必要としない「無償運送」で実施されており、市は地域でその活動が円滑に実施できるよう、財政的な支援等によりその取組を後方から支援しています。

協力・連携のきっかけ

松原地区須賀新田地域において、地域の高齢化や公共交通の利用困難など、地域の課題について地域で考え、取り組んでいくことを目的としてH30年に組織された「須賀新田シニアクラブ」から、地域内での移送支援に関する協働の提案をいただいたことがきっかけです。市では移送支援活動においての法的な観点からの整理や実施環境の整備を行った上で、地域との協働を推進しています。

役割分担

【団体の役割】

各団体は、移送実施団体を組織した上で、地域の状況に応じた移送のための一定のルールに基づき、自家用車や地域内での借用車両により、高齢者等の移動困難者の移送を行います。移送の主な目的は買い物や通院です。

【行政の役割】

市は移送実施団体が円滑に活動できるよう財政的な支援を行い、運営等に関する相談等を受けているほか、必要な情報提供や課題の共有等で団体の活動を支援しています。

事例

06

その他事業



介護体験授業

令和2年～

株式会社ツクイ、神奈川県立高浜高等学校 × 介護保険課

協力・連携 ポイント

年々ブラッシュアップしていて、生徒から好評いただいています

事業概要

若い世代が「高齢者への理解」を深めたり「介護の必要性」を実体験として学ぶ機会を創出するために、介護事業所と連携のもと、劇形式による介護職の魅力紹介や実演など、介護体験授業を開催しています。

【R4年度のカリキュラム】

～ある家族の介護物語～（劇形式による介護・看護の理解）

- ① 介護の現状について（平塚市介護保険課職員による講義）
- ② 相談からサービス開始（以下 劇形式）
- ③ 通所介護（説明とコグニサイズ）
- ④ 訪問介護（説明とビデオ）
- ⑤ 訪問看護（説明とVRを用いた認知症体験）
- ⑥ 訪問入浴（実演）

協力・連携のきっかけ

H30年から介護事業所と県立高浜高校で実施していました。

平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画【第7期】）（計画期間：H30年度からR2年度）の「介護人材のすそ野拡大事業」としてR2年度から平塚市も参加させていただいています（R3年度からは第8期計画の「若い世代へのすそ野拡大」の事業として位置付けています）。



役割分担

【団体の役割】

〔介護事業所〕

- ・授業の内容等を決める打ち合わせの参加
- ・授業カリキュラムの作成
- ・劇資料台本作成
- ・授業用資料等準備
- ・授業の実施

〔県立高浜高校〕

- ・場所の提供
- ・授業実施のための調整
- ・授業の内容等を決める打ち合わせの参加

【行政の役割】

- ・授業の内容等を決める打ち合わせの参加
- ・授業の冒頭に介護保険制度の概要を説明
- ・授業本編の劇に参加

事例

07

その他事業



生ごみ自家処理相談会

平成26年～

ごみを活かす会 × 環境政策課

協力・連携
ポイント

SDGs が推進される中、団体の取組が注目されています

事業概要

家庭から出るごみのうち、大きな割合を占めているのが生ごみに由来するものです。

減量のためには、買い物や料理の仕方を工夫するほか、コンポスターや段ボール、発泡スチロールを利用して自家処理（堆肥化）する方法が有効です。市民団体「ごみを活かす会」は、土の中の微生物の活躍により生ごみを堆肥化させることについて知見があり、このノウハウを市民に伝える活動をしています。

平塚市では生ごみの自家処理が可能であることの理解を深め、実践家庭を増やすことを目的に、ごみを活かす会の相談員を講師とした「生ごみ自家処理相談会」を市役

所本庁舎内で年に数回開催しています。さらにはひらつか環境フェアや、公民館まつりといったイベントでも相談会を実施し、生ごみ自家処理の普及啓発に努めています。

協力・連携のきっかけ

H23年度からの3年間、ごみを活かす会との市民提案型協働事業として「一般家庭での生ごみ自家処理推進事業」を実施しました。事業終了後も、生ごみ自家処理推進のために連携をしています。



役割分担

【団体の役割】

- ・生ごみ自家処理（堆肥化）のアドバイス
- ・生ごみ自家処理相談会の開催

【行政の役割】

- ・市民と団体の仲介
- ・相談会場の確保
- ・ホームページやチラシでの広報



事例

08

その他事業



平塚市民・大学交流事業

平成21年～

「市民と大学生による里地里山再生プロジェクト」

里山をよみがえらせる会 × 環境保全課

協力・連携 ポイント

普段と違う環境で手作業での田植えや稲刈り等の貴重な経験が可能

事業概要

本事業は平塚市民、市内の東海大学・神奈川大学、平塚市（行政）が一つになり、大学と地域（平塚）とが相互に交流し、発展していくことを目的とした平塚市民・大学交流委員会の一部会の事業として行っています。

本事業は、土屋の谷戸田と里山を舞台にして、市民と大学生が協力して里山の再生と保存を体験することで、相互の交流を図るとともに里山への理解を深め、自然環境に対する意識の向上と活動の活性化を目的としています。

里山再生プロジェクトは主にH17年度から、近年では一般的に機械を使用して行われる田植えや稲刈り、

脱穀などを昔ながらの手作業で体験できる貴重な場として、実際に田んぼに入ることで、土の感触や普段食べているお米がどのようにして作られているのかを肌で感じる場としてたくさんの人に親しまれています。

協力・連携のきっかけ

本事業が平塚市民・大学交流事業として実施される前、こども環境教室（現在この事業は環境政策課の事業）の里山編として、当時土屋公民館と協働で様々なイベントを実施し、子供たちに昔ながらの里山遊びの場を提供していた里山をよみがえらせる会との活動が始まりました。

その後、そのこども環境教室の名残から田んぼ等を管理している里山をよみがえらせる会へ協力を依頼し、市民や大学生が参加できる事業となりました。

役割分担

【団体の役割】

- ・イベントの体験場所と技術的な指導の提供
- ・土地の管理

【行政の役割】

- ・広報等による宣伝と集客
- ・イベント当日の主催として気軽に参加できる環境づくり
- ・対外的なPR

事例

09

その他事業



ガイドと巡る平塚の文化資源

平成16年～

ひらつか文化財ガイドボランティア協会 × 社会教育課

協力・連携
ポイント

地域の魅力を多くの人に伝えたい歴史好きの人の集まりです!!

事業概要

平塚市の歴史や文化財を学び、史跡・文化財巡りのボランティアガイド活動を行っています。

「中原御殿周辺を歩く」、「豊田の庄を巡る」など年7～8回、歩いて市内の歴史や文化財の魅力を伝えるツアー「ガイドと巡る平塚の文化資源」を開催しています。4キロメートルほど歩くコース(所要時間3時間程度)で史跡・文化財巡りの楽しさを味わえる参加しやすい企画です。

参加者に分りやすく、楽しんでもらえるようなガイドをするため、地域の歴史を共に学び、資料集めや興味深いエピソードの紹介など工夫を凝らしています。会員自身も「学び、知り、伝える楽しさ」を満喫しています。

協力・連携のきっかけ

H13年～15年に平塚市教育委員会が開催した文化財解説ボランティア養成講座の参加者により、H16年10月17日に会を発足し、H17年4月から本格的に活動を開始しました。

現在は自立した活動をしていいますが、広報等で社会教育課が協力しています。



役割分担

【団体の役割】

- ・開催の企画・立案
- ・資料作成
- ・実施及び当日の受付と運営
- ・協会の組織運営
- ・資料充実やガイド力向上のための勉強会や現地歩き研修会

【行政の役割】

- ・広報(参加者の募集)
- ・参加申込受付
- ・参加者名簿作成
- ・申込者との事務連絡

事例

10

その他事業



手話ダンスによる健康づくり事業

平成26年～

HANDSIGN × スポーツ課

協力・連携
ポイント

手話ダンスを通じた、運動・スポーツ活動のきっかけづくり

事業概要

若者や高齢者への運動・スポーツ活動のきっかけづくりとして、手話ダンスを活用した事業を実施しています。

ダンスに手話を取り入れたパフォーマンスで活躍している「HANDSIGN (ハンドサイン)」に公演を委託し、子どもから高齢者、障がい者が健康で、いつまでもいきいきと暮らし続けられるまちに向けて取り組みます。

HANDSIGNは、2005年に平塚市を拠点に結成され、2009～2010年には米国ニューヨークの舞台「アポロシアター」で活躍し、公認パフォーマーの認定を受けています。帰国後さまざまな番組に出演しているほか、一般公演や県内の小学校、中学校、高等学校などでも公演し、手話とダンスの普及に貢献しています。

協力・連携のきっかけ

同団体はろう学校や崇善小学校での公演実績があり、「手話ダンス」という分野が運動・スポーツ活動のきっかけづくりや福祉への理解に繋がるとして、事業化、市民参加型のワークショップや学校公演などを同団体へ委託しました。

ワークショップについては多くのスポーツや文化の体験教室を実施している平塚市まちづくり財団へ所管を移し、スポーツ課としては公演事業を継続しています。

役割分担

【団体の役割】

- ・事前打ち合わせ(会場下見)
- ・会場の準備と片付け
- ・リハーサル
- ・公演後のアンケート調査

【行政の役割】

- ・実施校の募集
- ・スケジュール調整
- ・事前打ち合わせ
- ・公演当日の手伝いなど





聴覚や発話に障がいのある方へ

119 NET119-緊急通報システムを
ご利用ください

利用者
登録が
必要!

もしもの時の緊急通報



NET119-緊急通報システムは、聴覚や発話に障がいのある方のためのシステムです。スマートフォン等を使い、簡単に119番に通報することができます。

NET119緊急通報システム登録者普及説明会

令和4年～

平塚市聴覚障害者協会 × 消防本部情報指令課

協力・連携
ポイント

協会と言葉を超えた信頼関係で安心安全なまちづくりを実現します

事業概要

H29年4月1日から、聴覚や発話に障がいがあり音声による119番通報が困難な方のために、スマートフォン等を活用して通報ができるシステム（NET119緊急通報システム）の運用を開始しました。R5年3月末で、59人の方が本サービスに登録しています。

R4年度は、本サービスをもっと多くの方に知っていただき、もしもの時に活用できるよう、新規に登録を希望者される方と既に登録いただいている方を対象に登録説明会を平塚市聴覚障害者協会を始め、市福祉部局及びシステム提供事業者との協働で2回開催しました。

登録説明会では、登録及び更新要領の再確認を行ったほか、システ

ムの練習モードを用いた通報の練習をしていただきました。また、市福祉部局からは、手話通訳者や要約筆記者の派遣協力等を受け、登録説明会を効果的に開催することができました。

協力・連携のきっかけ

NET119緊急通報システムの運用開始から一定年数が経過する中でコロナ禍もあり、登録者数が滞っておりました。このような状況下において、平塚市聴覚障害者協会から本システムの登録説明会を開催してほしいとの御要望をいただき、協働での登録説明会を再開することとなりました。

役割分担

【団体の役割】

- ・NET119の普及・啓発活動（パンフレット配布）
- ・平塚市聴覚障害者協会会員等に対し、登録説明会開催の案内、日程調整等

【行政の役割】

- ・登録説明会の開催企画、運営
- ・登録説明会への意思疎通支援者派遣
- ・NET119緊急通報システムの普及・啓発活動（パンフレット配布、個別相談への対応）